

普及活動情勢報告（平成 30 年 11 月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

集落営農組織の法人化にむけて ～第3回集落営農塾～



講演に聴き入る参加者

10月22日、農業改良普及課は庄毛集落営農組合の法人化（平成31年1月設立予定）を支援するため、JA土佐あき吉良川支所で集落営農塾（法人化）を開催し、庄毛集落営農組合員4人や関係者が参加しました。

農山村地域経済研究所所長で県農業経営者支援センターの専門アドバイザーの楠本雅弘氏から経営診断を受けた後、集落営農組合の法人化とその後の発展について講義を受けました。

参加者からは、「地域活性化の一つの『力』になれるよう法人化したい。」等の意見がありました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して、安芸地域での集落営農の法人化に向けて支援します。

かん水・温度管理も立派な環境制御！ ～穴内支部園芸部園芸研究会ナス部会現地検討会・勉強会～



しっかりと栽培管理して
前年以上の収量を目指すぞ～

10月25日、穴内支部園芸部園芸研究会ナス部会が、環境制御機器導入ほ場3ヶ所で現地検討会、穴内集出荷場会議室で目慣らし会と勉強会を開催し、生産者17人が出席しました。

現地検討会では生産者同士で炭酸ガスの施用濃度や加温機の稼働時期について意見交換を行っていました。勉強会では農業改良普及課から湿度制御による病害防除事例や日射比例かん水の考え方について指導しました。

参加者から「午前中は蒸散速度が速いので午後よりも午前の方が水が必要なんやね」といった意見が聞かれ、新たな発見に繋がった生産者も多数いました。

農業改良普及課は、今後も環境制御に関する勉強会を行い、増収・高品質に繋がる指導を継続します。

葉ニンニクをやってみんかえ？ ～中芸集出荷場開発部会視察研修～



栽培だけでなく収穫後の調整方法にも興味を示す参加者

本年度、農業改良普及課が葉ニンニク栽培を推奨し、3人の生産者が栽培を開始したことから、南国市への葉ニンニク栽培の視察研修を企画し、10月26日、中芸集出荷場開発部会の栽培に意欲のある生産者6人が参加しました。

視察先では、JA南国市の営農指導員や生産者から、栽培方法などの説明がありました。

参加者からは、「定植時のポイントは？」、「防除はどうしているか？」などの質問が出るなど、実際に栽培しているほ場で情報交換の場を設けたことでイメージが湧き、栽培への意欲を高めることが出来ました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して中芸地区での葉ニンニク栽培の普及・定着に向けて支援します。

日南の里芋おいしいよ！



「いっぱい採れたき、
食べてね！」

室戸市吉良川町日南（ひなた）地区には、伝統野菜『ぼたなす』と並ぶ自慢の野菜に、『日南の里芋』があります。直販所ではおいしいと評判で、並べるとすぐに売り切れてしまいます。

しかし複数の品種が混在しているため品種の整理が必要と考え、農業改良普及課室戸支所は室戸市地域おこし協力隊と地域の活動組織‘ひなたぼっこ’と連携して、品種調査を行いました。調査は10月27日の土曜日に行い、地区の子供たちも参加して笑い声の絶えない楽しい秋の一日となりました。

調査の結果、地区には7品種が存在することが判明し、それぞれの特徴や由来、地区での栽培状況などを取りまめることができました。

農業改良普及課室戸支所は、今後も地域の活動組織‘ひなたぼっこ’と連携して、関係機関とともに地域活性化を目指してサトイモ栽培を推進します。

現地検討会を開催！互いの栽培技術向上にむけて ～田野町野菜園芸研究会現地検討会～



生育状況を確認する生産者

10月30日、田野町野菜園芸研究会が現地検討会を開催し、地元市場出荷のナス生産者6人が参加しました。

農業改良普及課は、ナスの品質・収量の向上に向け、かん水や温度管理、病虫害防除など今後の栽培管理についてのポイントを説明しました。

現地ほ場では参加した生産者が、草勢や管理状況を確認しながら「かん水量をもう少し増やした方が良いか？」、「今の時期だけ毎年葉が黄化する。原因は何か？」など活発な意見交換が行われました。

農業改良普及課は、今後も研究会活動の支援や個別巡回を通じて、ナスの品質・収量の向上を目指して指導します。

「農業体験ツアー in あき」を開催！！ ～安芸市担い手支援協議会～



ナス栽培施設を
視察する参加者

11月3～4日、安芸市担い手支援協議会主催で農業体験ツアーinあきが開催されました。県内外で就農を検討中の3組5人が参加し、安芸市の農業や就農支援についての紹介、ナス、ピーマンの収穫体験や先輩農家や研修生との意見交換を行いました。

農業改良普及課は、ツアーの企画・運営の支援を行いました。

参加者は、先輩農家や研修生からの「短期・長期で今後のビジョンを考えてみるのが大切」、「自己資金の準備も必要」等のアドバイスを熱心にメモをとりながら聞いていました。

農業改良普及課は、今後も関係機関や生産部会と連携し、産地の担い手確保を支援します。

**農福連携の支援体制づくりを
～安芸市農福連携研究会先進地視察研修～**



**長野県の農福連携の
取り組み状況を聞く研究会員**

安芸地域では、障がい者等の就農の支援を行う農福連携の取り組みが行われています。ただ、今までは担当者個人による支援が中心で、担当者の異動や支援対象人数の増加等による支援の停滞が懸念され、今後は組織的な支援を行う体制づくりの確立が必要とされています。

そこで、農業改良普及課は、研修場所の選定、日程や内容の調整、事前質問の設定など、研修が円滑かつ有意義な内容になるよう企画し、10月9、10日に安芸市農福連携研究会員7人で、障がい者の農業就労チャレンジプロジェクトを行っている長野県ヘルプセンターの体制と活動内容について視察研修をしました。また、研修の内容は、10月19日の農福連携研究会の定例会などで報告・協議をしました。

農業改良普及課は、この研修内容を参考に、よりよい支援体制づくりを行います。